

岩手県立大学生がヒヤリング 本会等を実態調査

紫波の歴史を取り込んだまちづくりについての卒業論文を作成するため、岩手県立大学4年(当時)の女子学生が昨年12月に本会を訪れてヒヤリングが行われた。その結果をまとめたヒヤリング調査報告書が、このほど本会へ届けられたのでその一部紹介します。

◎ 結果から分かったこと

同時に調査していた紫波歴史研究会との共通点として3つある。

1つ目は、会員の年齢層が高いということである。紫波歴史研究会の会員平均年齢は71歳で樋爪館懇話会も60～90代ということで歴史関係の団体は高齢化の傾向にあることが分かり、若者を呼び起こすための対応策が必要になると考えられる。

2つ目は、会員のほとんどが元々歴史に興味があったということである。紫波歴史研究会も同じ特徴を持ち、元々歴史に興味ある人が会員がほとんどだということは、反対に言えば興味をもたない人は歴史関係の団体に参加しにくいと考えられる。このことから歴史に興味を持たない人にも参加してもらう対応策も必要であるといえる。

3つ目は、前にも述べたが、一番大きな課題が会員の高齢化ということである。またその他に会員が会合に集まりにくいという課題も抱えていることがわかり、こういった点での対応策も必要と考えられる。

以上のことから、特に今後の団体の継承に向けて高齢化解消の課題に向き合っていくことが重要であり、若者を呼び起こすために若者とのコミュニケーションを増やしたり、若者に関心を持ってもらうための広報活動を考案・実施するなどの対応策が必要になると考えた。



(写真) 紫波町のまちづくりからみた歴史団体の実態について、岩手県立大学4年生(当時)の女子学生が卒業論文作成のため本会等とのヒヤリング。
令和3年12月7日
赤石公民館会議室

《《《 6月～7月 行事予定のお知らせ》》》

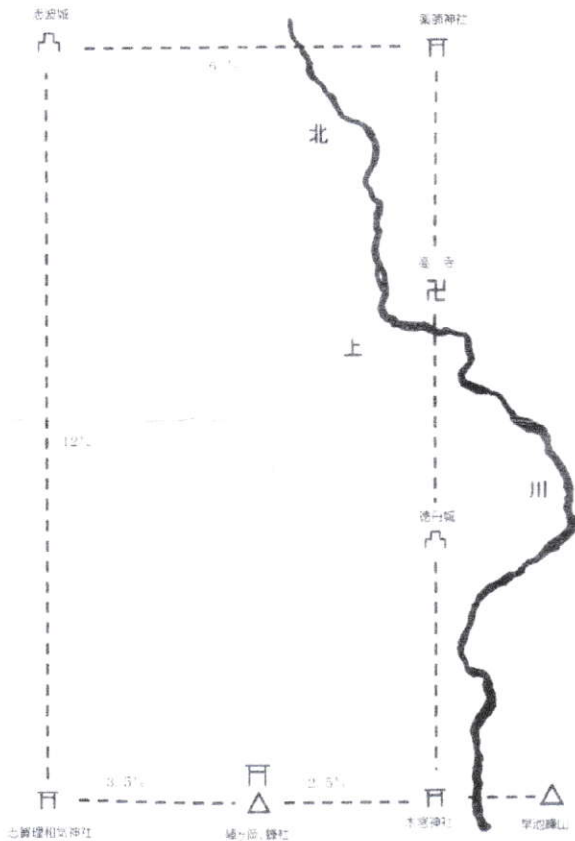
| | | |
|----------------|----------------|--|
| 6月12日 (日曜日) | 第27回 定期講演会 | 時間 午後1時30分から午後3時30分 会場 赤石公民館 講堂 演題 「鎌倉殿の13人と樋爪氏」 講師 八重樫 忠郎氏 (元平泉町 観光商工課長) 会費 会員200円 (会員外500円) |
| 7月20日 (水曜日) | 第131回 月例発表会 | 時間 午後7時から午後9時 会場 赤石公民館 講議室 発表者 宮 良夫 テーマ 「『善光寺前立観音ご開帳』 と禅宗とは？」 |

5月18日に開催した第130回月例発表会において、発表者が用いました資料の一部分のところどころを抜粋して掲載しましたのでご了承願います。

金濱興一氏の発表資料「志波城の外郭」の続きから

□まとめ

志波城の外郭(エリア)



- ・坂上田村麻呂は志波城の設置場所を決めるに際して志賀理和氣神社(現水分神社説)を起点として決めた。
- ・その外郭は、陣ヶ岡神社、早池峰山を結ぶラインを基に構成し、東6kmの地点に来宮神社を設置した。
- ・東ラインと北ラインの交わる地点は、志波城からみて東方に聳える早池峰山(東峰)を想定して薬師神社(盛岡市東中野)を設置した。
- ・東ライン(木宮神社～薬師神社)上にある高寺(盛岡市手代森)は桓武天皇勅願とあることから、坂上田村麻呂将軍が設置した観音堂であると考えられる。
- ・805 延暦24 坂上田村麻呂は藤原緒嗣と菅野真道に天下の徳政を相論させる。桓武天皇は緒嗣の意見により征夷と造都を停止する。
- ・806 延暦25 桓武天皇逝去 平城天皇即位
- ・807 大同2 諸国に観音菩薩を本尊とする寺社を勧進する。
- ・811 弘仁2 坂上田村麻呂逝去 53歳
文室綿麻呂 志波城の移転を奏上す
三十八戦争の終結を宣言
- ・812 弘仁3 志波城 廃止
- ・813 弘仁4 文室綿麻呂 徳丹城を築城
- ・815 弘仁6 徳丹城 廃止

工藤睦夫氏の「赤沢の七仏薬師について」から

本年2月6日に平泉町で開催された青山学院大学名誉教授浅井和春先生の講演「奥州藤原氏の薬師信仰と赤沢七仏薬師像」をパワーポイント映像。【写真】平泉世界遺産ガイドセンターが令和3年11月に発行された冊子「赤沢七仏薬師」から抜粋して掲載した。

[まとめ]・日本の薬師信仰は中国・朝鮮(百済・新羅)の影響下、七世紀から始まった。

- ・一尊七仏薬師や七体七仏薬師の造像は奈良時代には認められる。
- ・平安時代の薬師信仰は伝教大師最澄が創建した比叡山延暦寺根本中道薬師の影響下、天台薬師として東国に伝わった。
- ・奥州藤原氏の薬師信仰はこの天台系薬師信仰にもとづき、毛越寺金堂の本尊は丈六薬師如来坐像であった。
- ・赤沢薬師堂の七仏薬師は比叡山藤原氏関連の寺院と推測される「蓮華寺」に伝わったもので、平泉には見られない七体七仏薬師の造例として重要である。
- ・修理の結果、七体はいずれも本来は素木の「檀像」仕立ての像であったことが判明し、延暦寺根本中堂七仏薬師の伝統を継承したものであった。
- ・材質は朴と桂の二種類に分かれるが、中尊と二体の脇仏が朴材質であることから、当時、朴のほうが桂より格上と見られたことも推測される。



修復後の七仏薬師如来立像



修復前の七仏薬師如来立像